

実施日：7月15日（4校時） 7月15日（6校時）	
領域：特別の教科 道徳	
取組名：「あたりまえ」の「ちがいを考えてみよう」（資料「楽しいコミュニケーションを考えよう」 『ネットコミュニケーション・リテラシー教育』（LINE・静岡大学）	
対象：6年生	実施場所：教室
ア ねらい <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SNSの正しい利活用を知り、相手の気持ちを考えた言い方や行動をし、温かい人間関係をつくろうとする態度を育てる。（価値的・態度的側面）</li> <li>・ 自尊感情の向上が他者理解へつながらず、自分自身の全てと向き合いそれらを認め、他者とよりよい人間関係を進んで築こうとする意欲をもたせる。（価値的・態度的側面）</li> </ul>	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資料「楽しいコミュニケーションを考えよう」の学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ LINEの基本的な使い方を知り、LINEを使用する場合、代表的な不安要素5つを抽出し、「その状況が自分にとって受け入れられるかどうか」を順位付けする。</li> <li>・ 順位付けした後、なぜその順位にしたのかをグループで交流する。</li> <li>・ 全体で交流し、様々な意見を聞く（人によって受け入れられる項目は様々であるため、自らの意見を話せる場を意図的に設定する）。</li> <li>・ 例題を共有（Aさんは全く気にならない項目が、Bさんにとっては到底受け入れられない項目である状況を作る）し、AとBとの間でLINEをすることで起こりうることは何かを考えさせ、グループ意見を交流する。</li> <li>・ 価値観の違いと多様性について学び、自分ならどのような言動をすることが相手を考えて利活用になるのかを考えさせ、生活に生かせるようにする。</li> </ul> </li> <li>○ 「他者との人間関係の築き方」の学習（第三者が関わったいじめのケースを提示） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登場人物のそれぞれの思い、何が欠けていたのか、何を大切にすればよかったかを考えさせ、意見交流する。</li> <li>・ 一見、自分を守るために暴言を吐いたり、悪口に同調したりしているが本当の意味で自分自身を大切にしているか考えさせ、自分を大切にできない人は他者も大切にできない状況に気づかせる。そして、自分の良さや改善すべきことも含めて自分の全てを認められる姿勢をもたせ、今後の人間関係の土台となる自尊感情を向上させようとする態度を育成する。</li> </ul> </li> </ul>	
ウ 連携先：家庭、地域	
エ 連携に向けての取組 <p>普段の家庭での生活や遊びの中で、SNSの正しい利活用に向けた言葉づかいや思いやりについて家庭内で意見交流し、同時に愛情をもって子どもと関わりその経験が他者にも向けられるように温かく見守ってもらうことを、懇談会や学校通信などで呼びかける。</p>	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行う上での工夫点 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別活動（児童会活動）にて、学校独自のSNSの正しい利活用についての取組を行う。自分や他者の人権を守るために必要なことを啓発し、人権感覚の向上に努める。</li> <li>・ 校内の取組として独自のアンケート調査を実施し、ネットトラブルの現状把握を行っている。そうした取組は生徒指導と連携することで改善を図る。</li> </ul>	
カ 評価の方法 <p>グループや全体での意見交流に関する資料及び板書・感想 [別紙④]</p>	
キ 成果 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業後、自分と相手の価値観は異なることを知ったうえで相手にとって居心地の良さを感じられるようなかわりを意識的にする児童が増えてきた。</li> <li>・ 自分が嫌だと感じることは相手も嫌だと感じるように、自分と相手を大切にすることを覚悟する児童が増えてきた。</li> <li>・ 自己の良さを感じ、自らの大切さに気付いた言動がみられるようになってきている。</li> </ul>	
ク 課題 <p>意識はしても、苛立った際に突発的に暴言を言うってしまう児童がいる。自分が落ち着くための方法を知り、周りのサポートも受けたいうえで、自立した人間関係の形成に向けて引き続き指導していきたい。</p>	